特別支援学級在籍者数及び自閉症・情緒障害児童生徒の現状

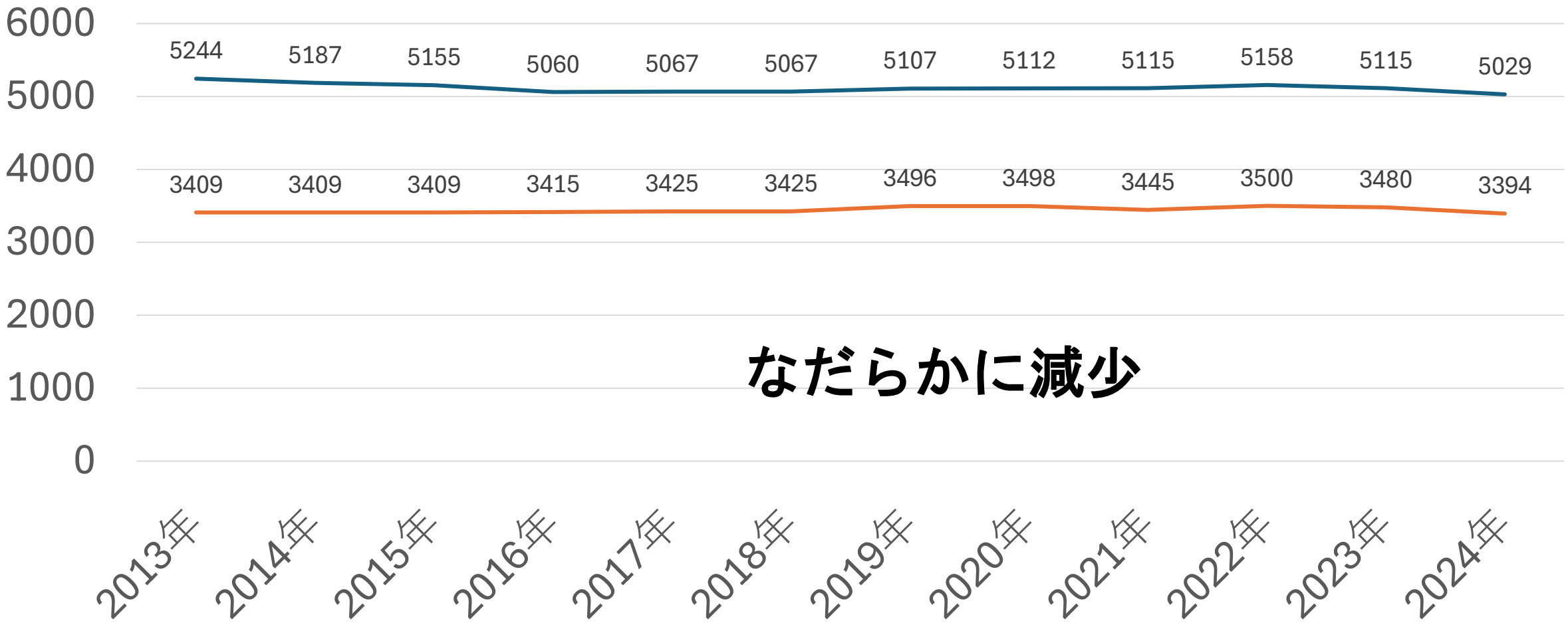
平一小６年男児の４人に１人が特別支援学級在籍

宮古島市の教育（2013年～2024年度）

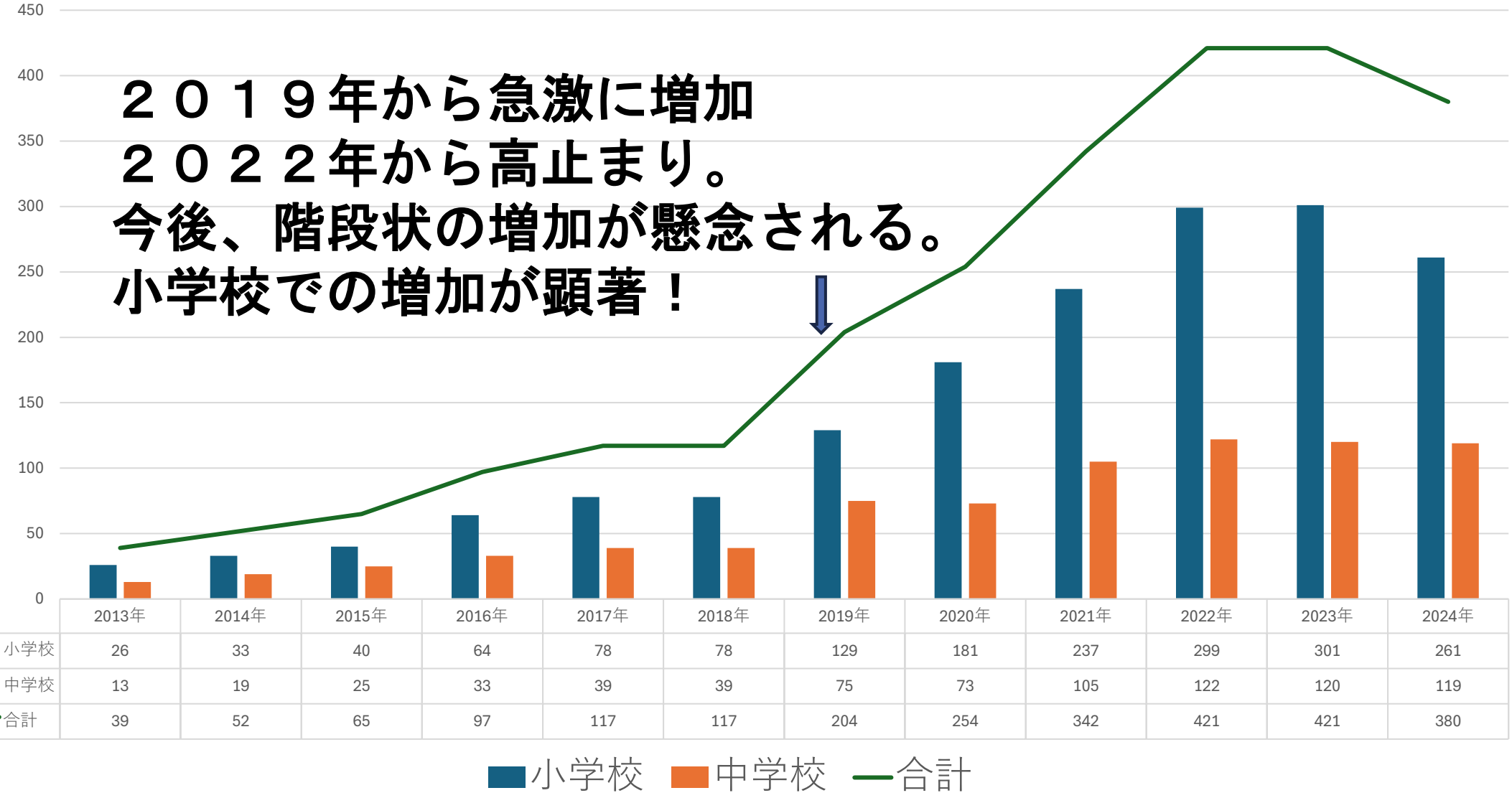
宮古島市教育委員会

宮古島地下水研究会　友利直樹（医学博士）　２０２５年６月９日

小中学校児童生徒数の推移（人）

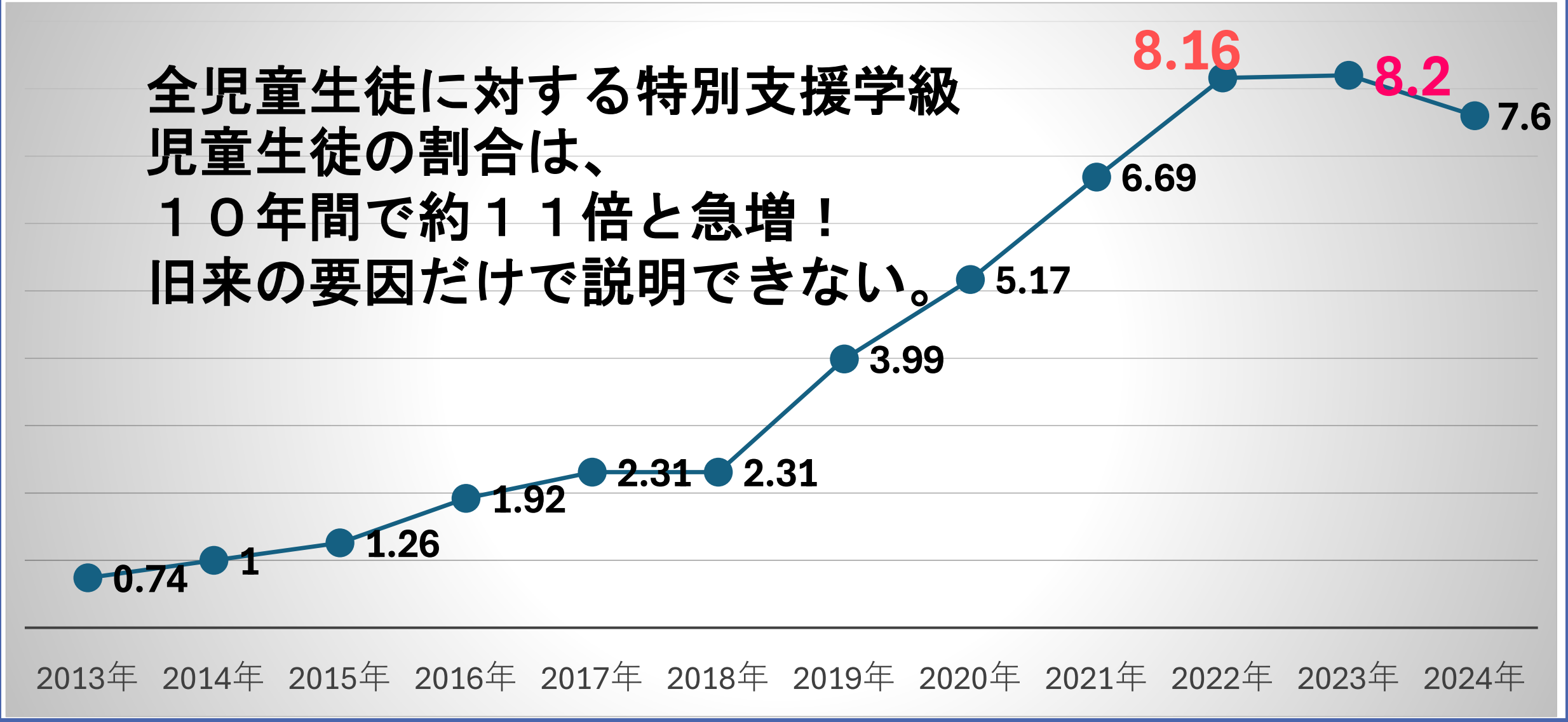


宮古島市小中学校特別支援学級在籍者数(人)

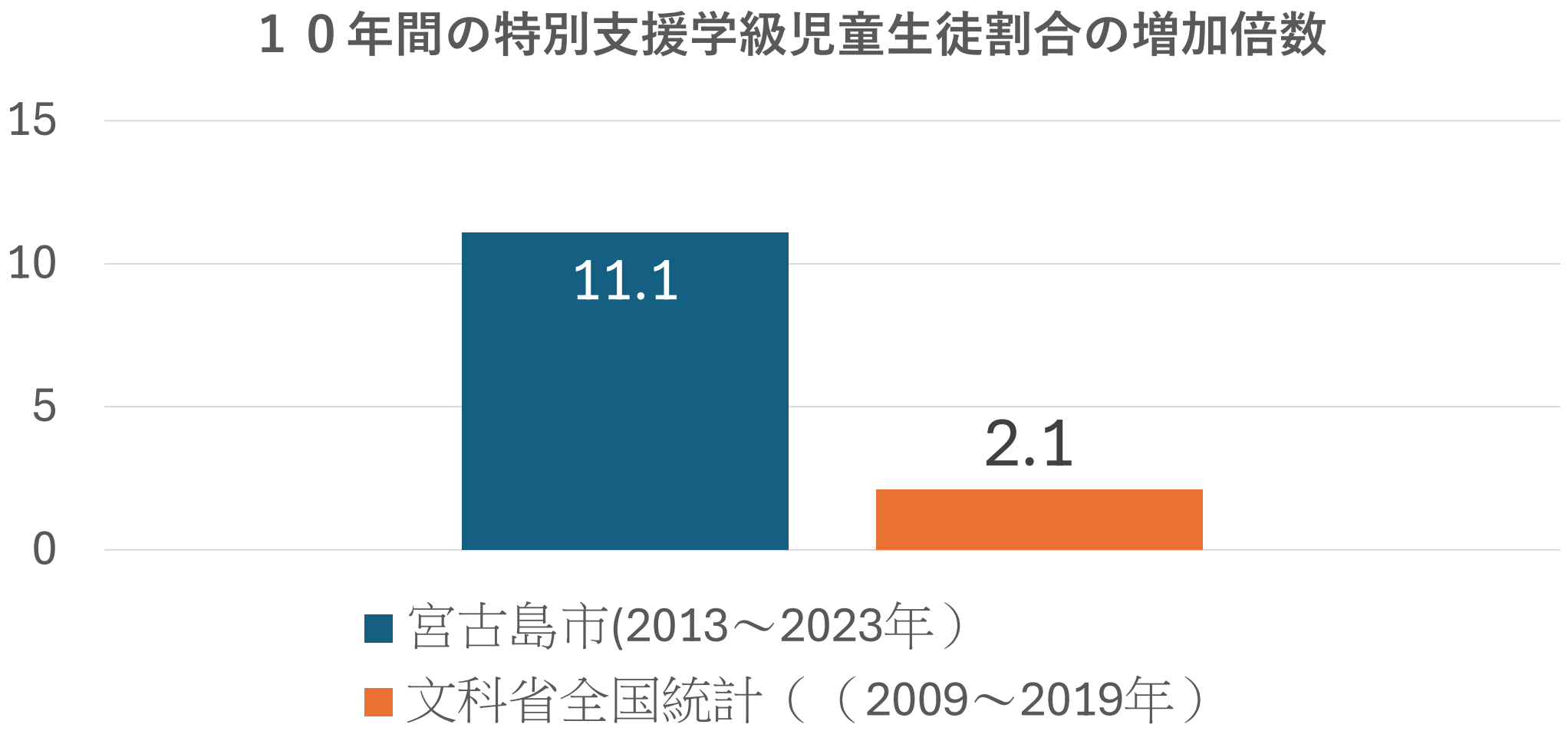


	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
小学校	26	33	40	64	78	78	129	181	237	299	301	261
中学校	13	19	25	33	39	39	75	73	105	122	120	119
合計	39	52	65	97	117	117	204	254	342	421	421	380

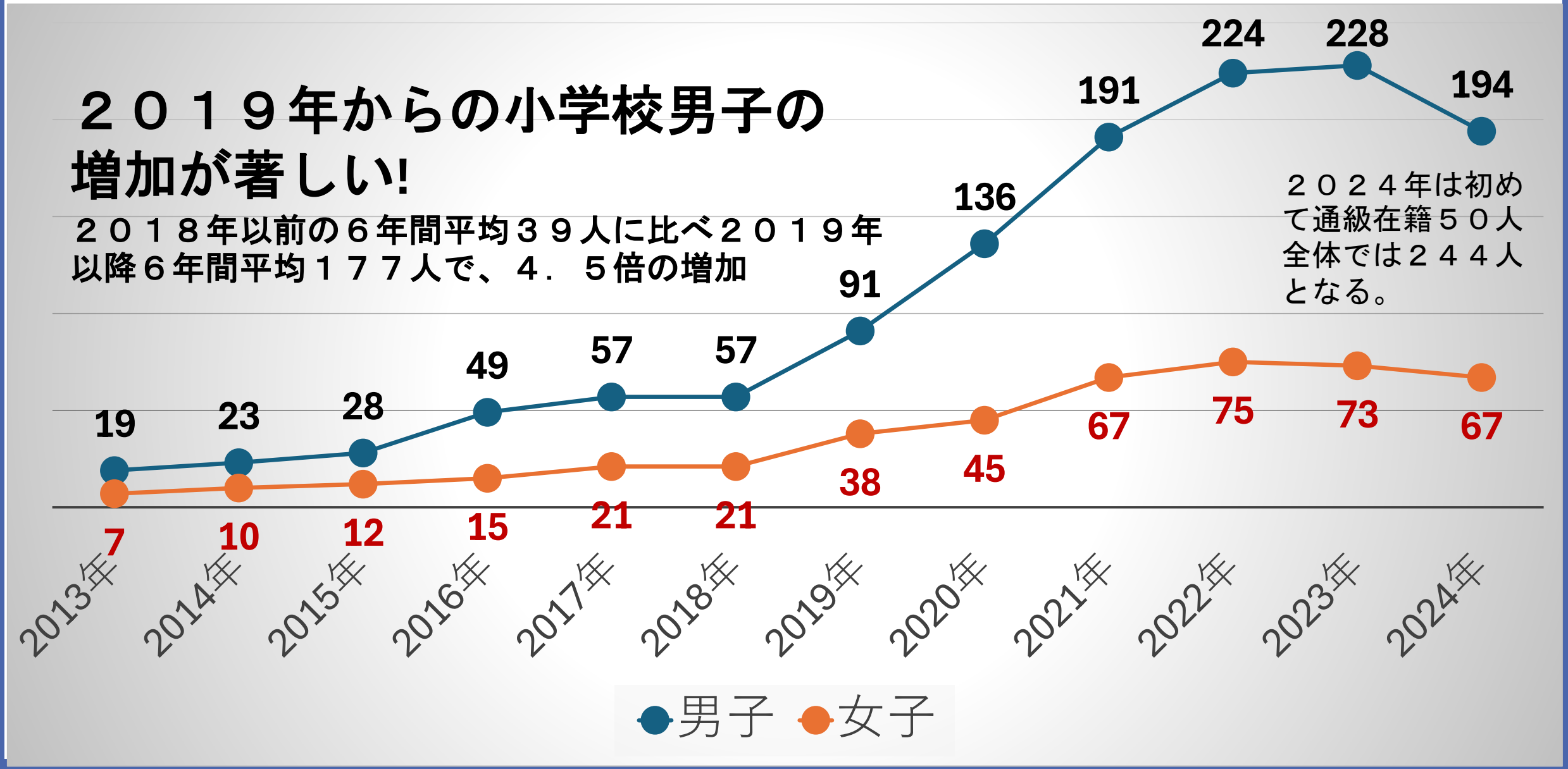
小中学校特別支援学級在籍児童生徒の割合（%）



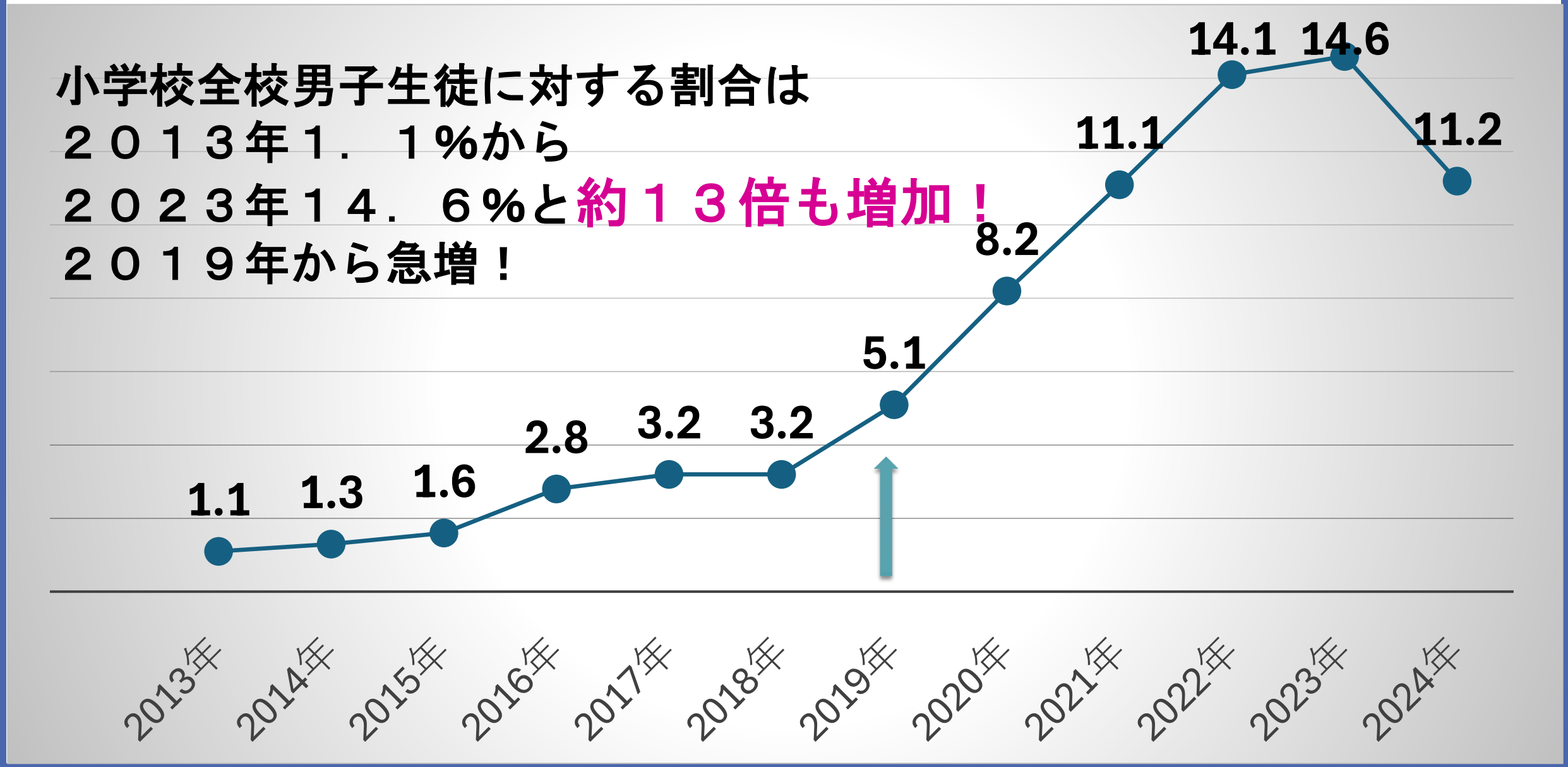
宮古島市の小中学校特別支援学級児童生徒割合の増加倍数は、全国平均の約５倍！



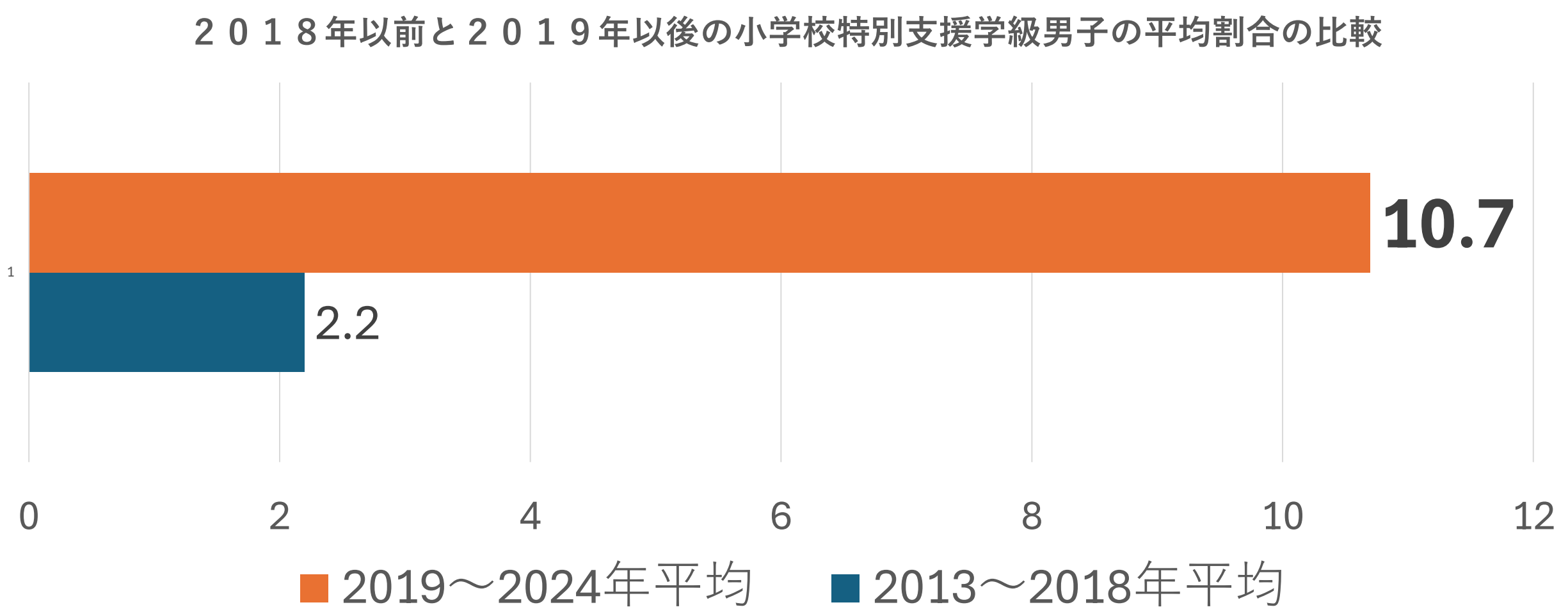
小学校特別支援学級男女別在籍者数



小学校特別支援学級男子生徒割合（%）

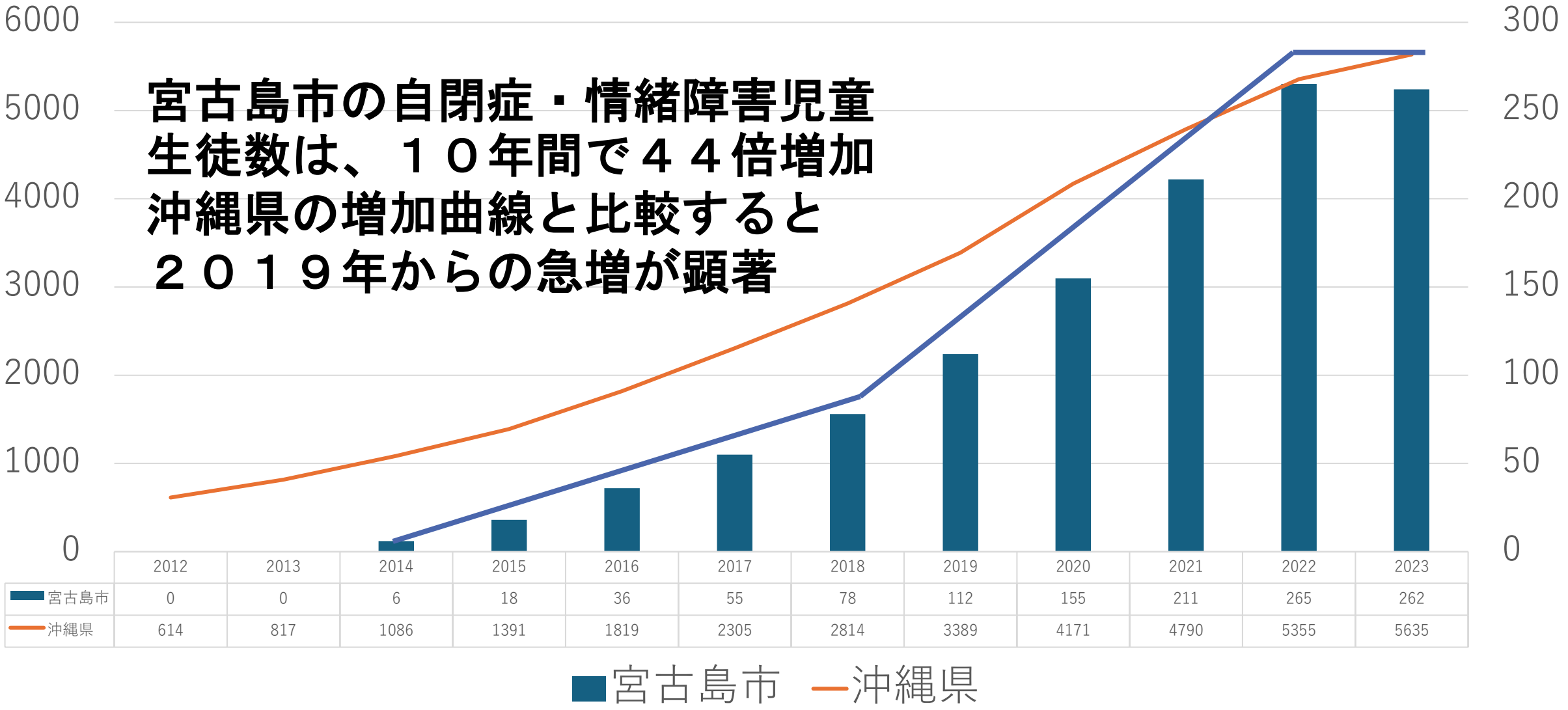


宮古島市小学校特別支援学級在籍男児は2019年以降は、それ以前に比べ約５倍の増加！



小中学校発達障害(自閉症・情緒障害）児童生徒数の推移（人）

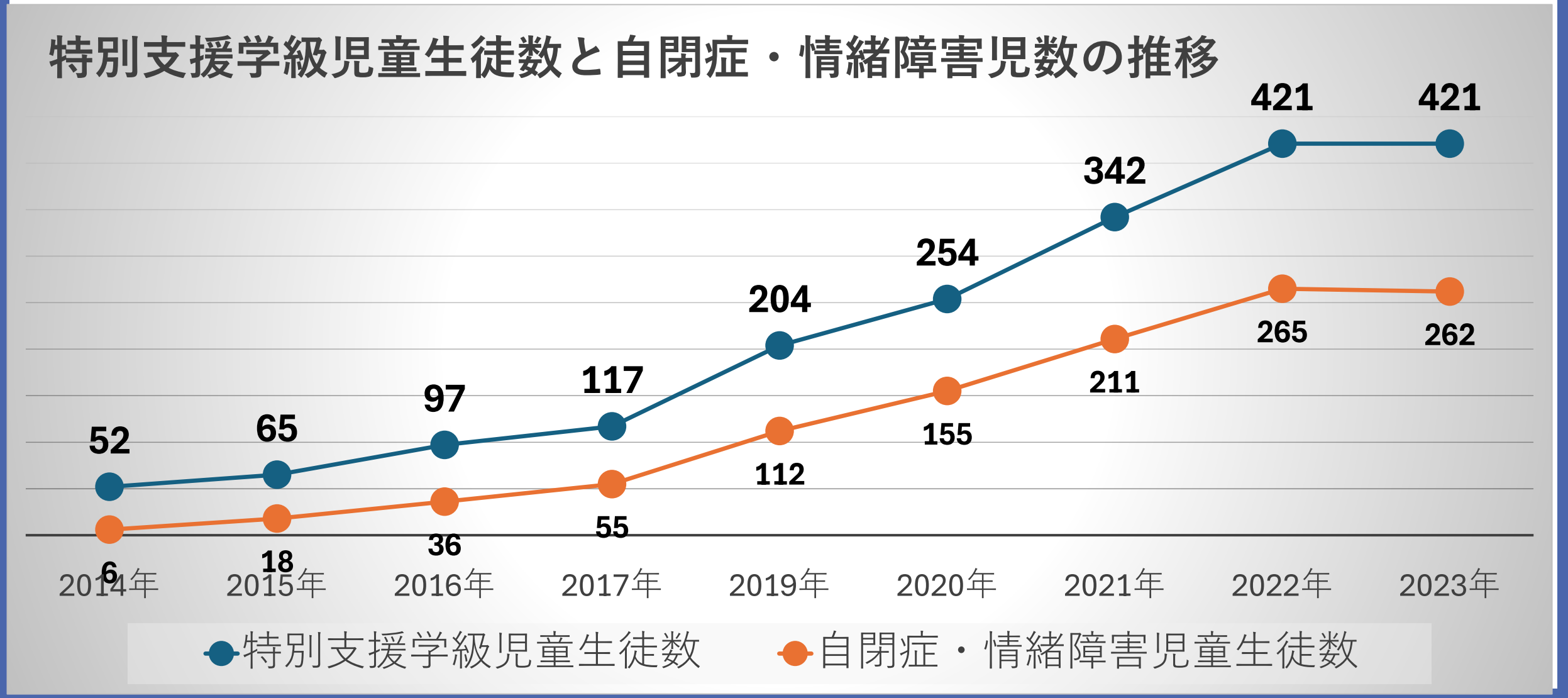
沖縄県学校基本調査報告書（学校基本統計）



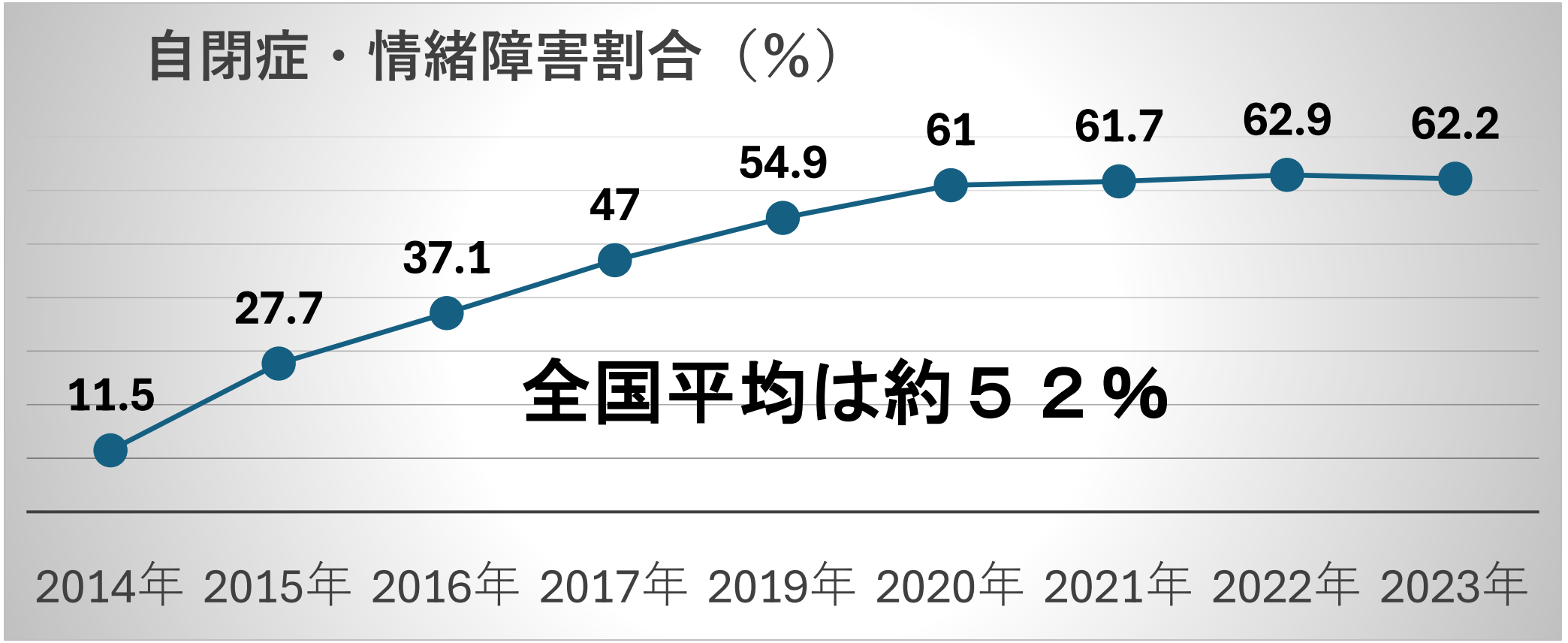
宮古島市の自閉症・情緒障害児童生徒数は、１０年間で４４倍増加
沖縄県の増加曲線と比較すると
２０１９年からの急増が顕著

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
宮古島市	0	0	6	18	36	55	78	112	155	211	265	262
沖縄県	614	817	1086	1391	1819	2305	2814	3389	4171	4790	5355	5635

宮古島市の自閉症・情緒障害児と特別支援学級児童生徒数は、２０１９年から並行して増加



2020年以降、自閉症･情緒障害児は、特別支援学級在籍者の６２％を占める。



１．小中学校児童生徒数は、この１２年間で、5244人から5029人と緩やかな減少が認められる。
２．小中学校特別支援学級在籍者数は、２０１３年～２０１８年の６年間平均人数８１人から２０１９年～２０２４年迄の６年間平均人数３３７人に増加しており、４．１倍と増加が加速している。
３．小中学校特別支援学級在籍者の全校生徒に占める割合は年の0.74%から2022年８．２％と１０年間で１１倍と急増。
４．小中学校全生徒に占める特別支援学級児童生徒割合の１０年間での増加倍率は、宮古島市が１１．１倍に対し、全国平均２．１倍であり、全国平均の着５倍と急増している。
５．小学校特別支援学級在籍男子の増加が著しい。２０１８年以前の６年間平均３９人に比べ２０１９年以降６年間平均１７７人で、４．５倍と急増。

６．小学校特別支援学級在籍男子児童の全児童数に対する割合は、２０１３年の1.1%から２０２３年14.6%と１３倍も増加。小学校男子の１４人に１人に該当する。

７．小学校特別支援学級在籍男子児童の全児童数に対する割合は、２０１３～２０１８年６年間平均２．２%に対し２０１９～２０２４年６年間は１０．７%と約５倍の増加。

８．宮古島市の自閉症・情緒障害児童生徒数は、１０年間で４４倍増加。沖縄県の増加曲線と比較すると２０１９年からの急増が顕著。

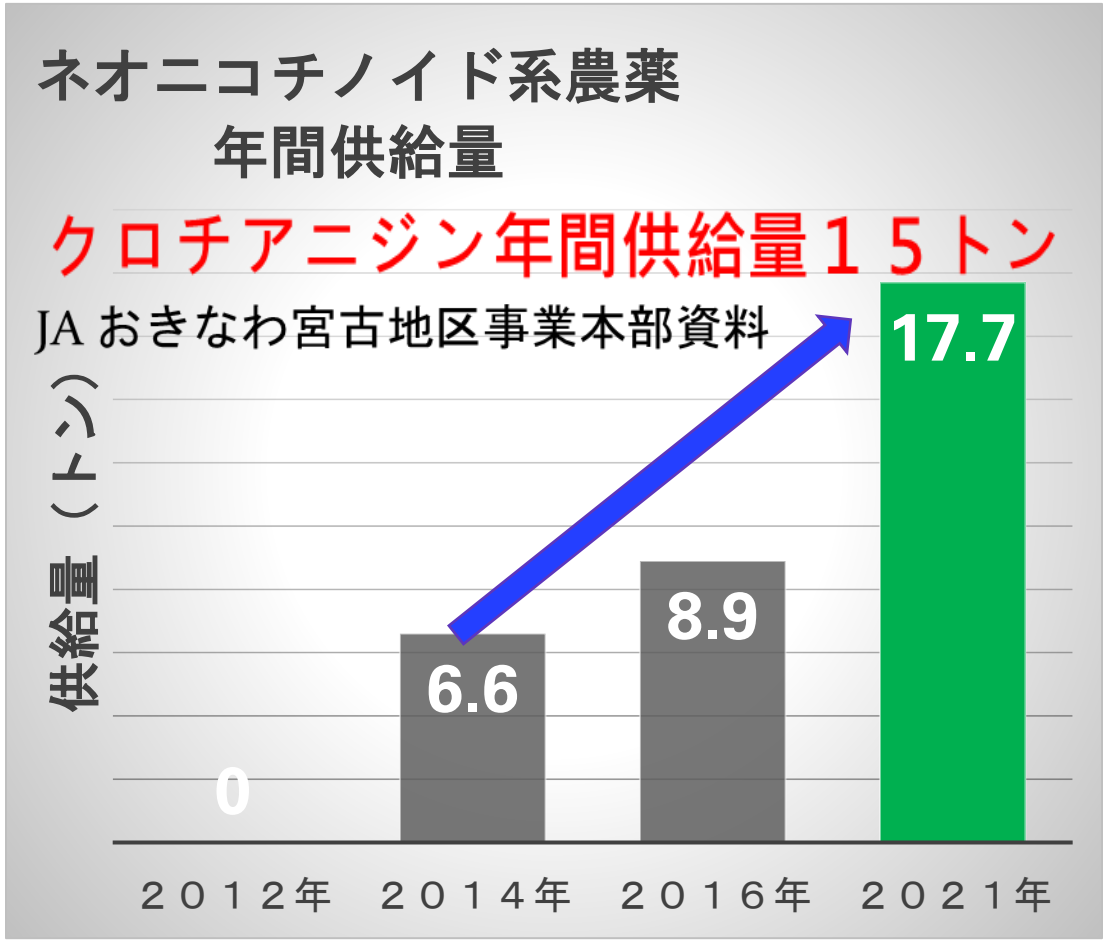
９．２０２０年以降、自閉症・情緒障害児は、特別支援学級在籍者の６２%を占める。全国平均の約５２%と比較すると１０%も多い。

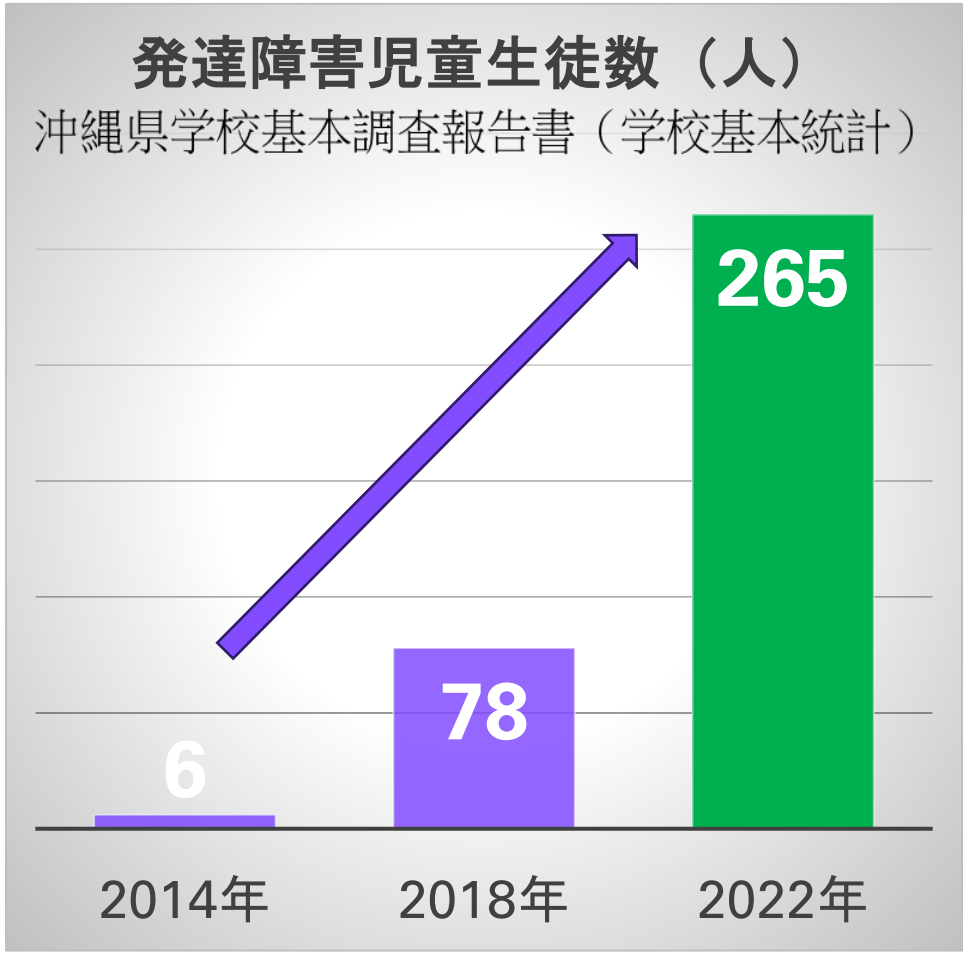
1．宮古島市では小中学校児童生徒数の緩やかな減少にも関わらず特別支援学級在籍児童生徒数及び全児童生徒数に占める割合は１０年間で１１倍と急増している。
2．小学校男児の増加が著しく１４人に１人が特別支援学級に在籍している。
3．自閉症・情緒障害児童生徒数は１０年間で４４倍と急増し全国平均の２０倍。特別支援学級に占める自閉症・情緒障害児童生徒の割合は６０％と全国平均より１０％多い

保護者の理解が進んだだけで説明できるのか？
水道水に含まれるニコチノイド系農薬胎児暴露による発達神経毒性の影響も考慮すべきではないか

発達障害（自閉症･情緒障害）児童生徒数急増とネオニコチノイド系農薬年間供給量増加が相関！

農薬暴露による発達障害は、既に出現している！





飲水や食べ物に含まれるネオニコチノイド系農薬へ母親が暴露

ネオニコチノイドは胎盤を通し胎児に移行、脳血管関門を通過し胎児の脳に
発達神経毒性が加わり一部の神経ニューロン形成が阻害される

“発達障害のなりやすさ”となる関連遺伝子を有する胎児に、
ネオニコチノイドによる発達神経毒性が加わり発達異常を発症

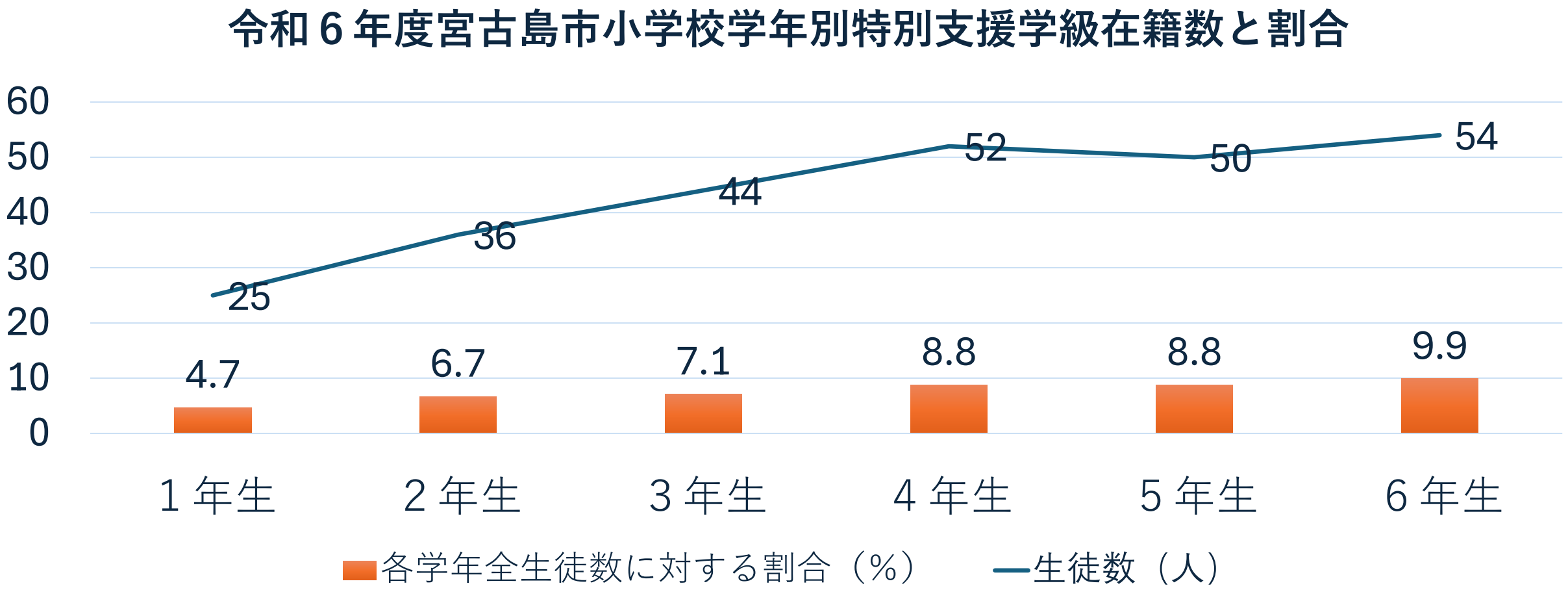
自閉症スペクトラム症、
注意欠陥・多動症、限局性学習障害等
の発達障害増加に関与

これまで発達障害増加要因

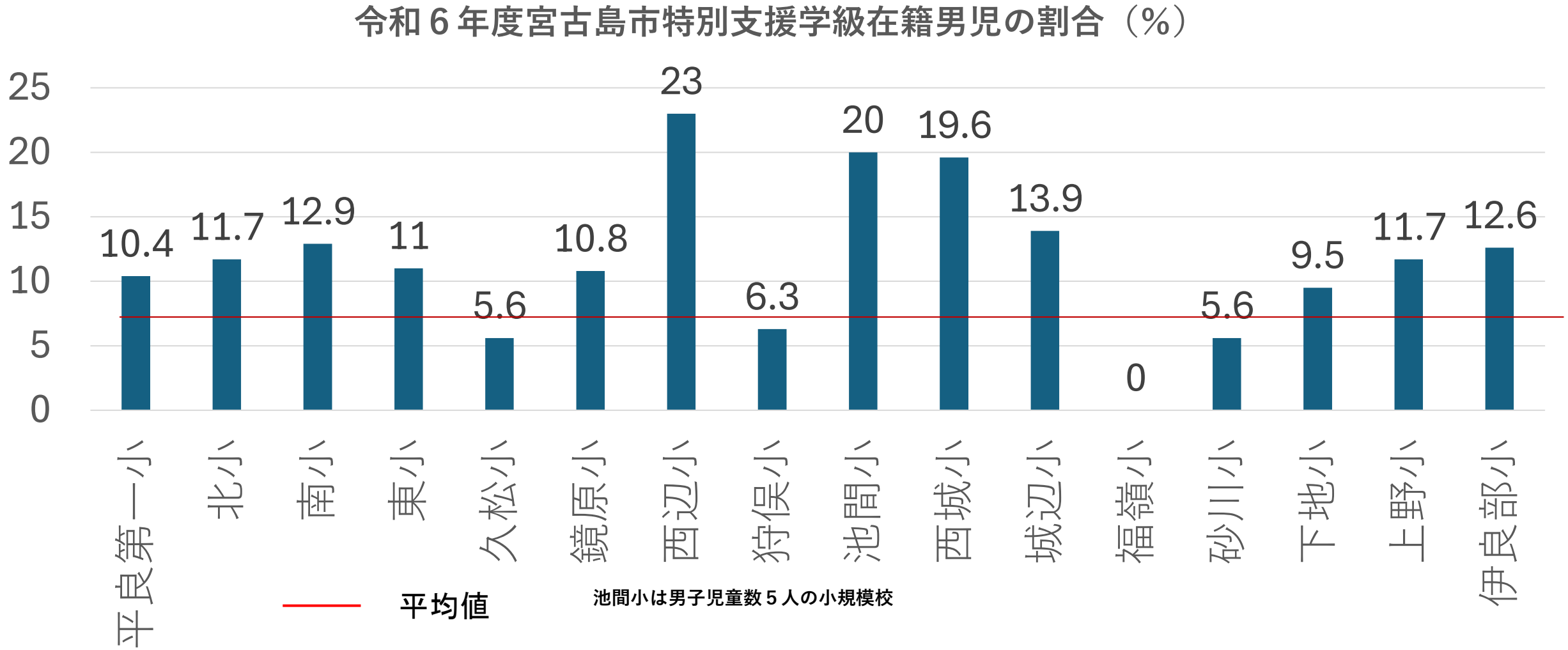
教育現場や家庭での認知度の増加、
理解の向上による早期発見
子供を取り巻く環境要因の変化
診断基準やカテゴリーの変更

宮古島市の小学校特別支援学級在籍男子児童の現状

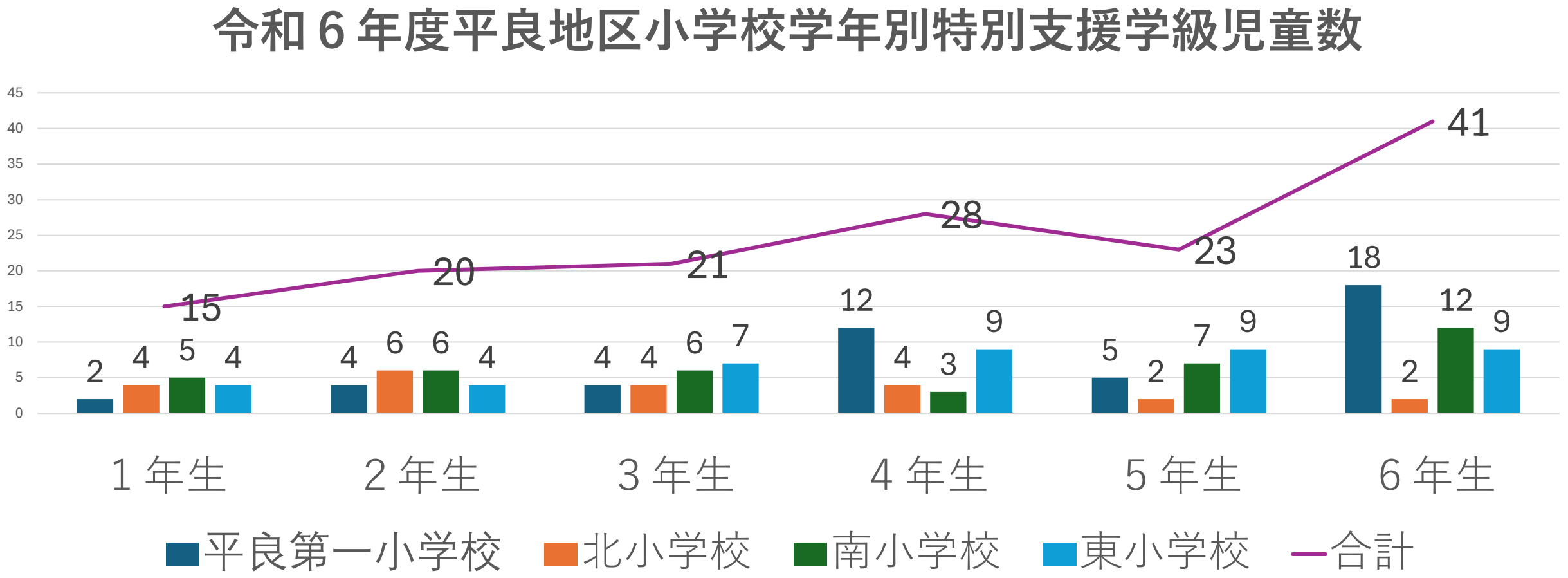
宮古島市の小４～６年生の１０人に１人が特別支援学級在籍



令和６年度宮古島市小学校特別支援学級在籍男児の割合が１０％を超えるのは１６校中１２校

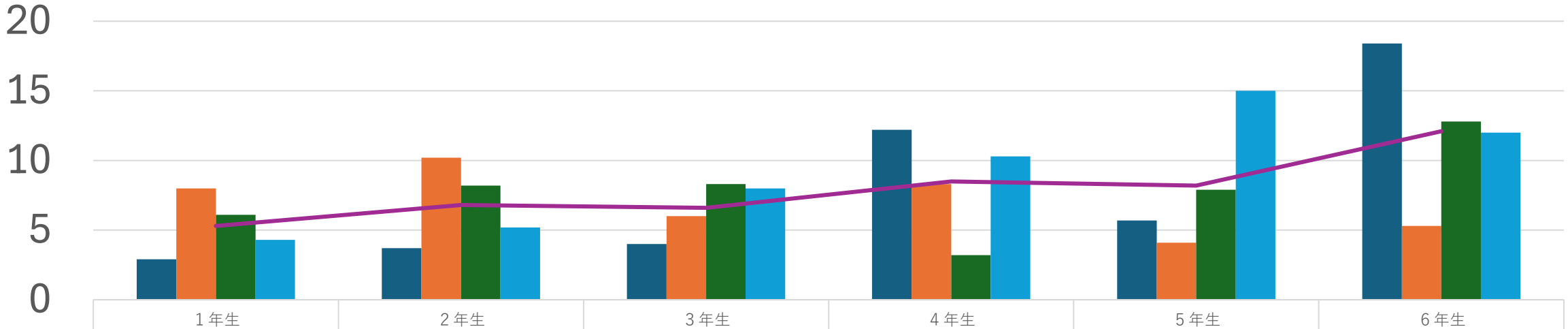


都市部である平良地区の各小学校の特別支援学級児童数は、学年が進むと共に緩やかに増加。６年生での増加が突出



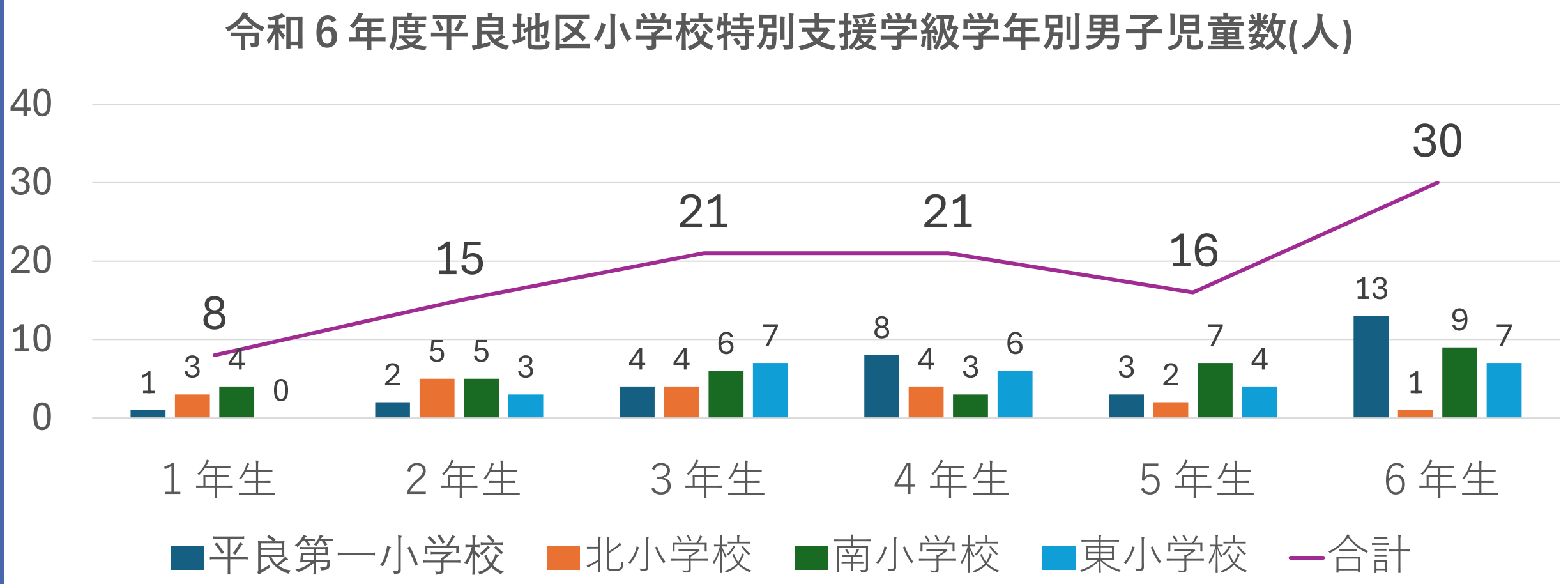
特別支援学級児童割合は、平一小、東小では、高学年で、北小では低学年で多い

令和６年度平良地区小学校学年別児童総数に占める特別支援学級児童の割合（%）

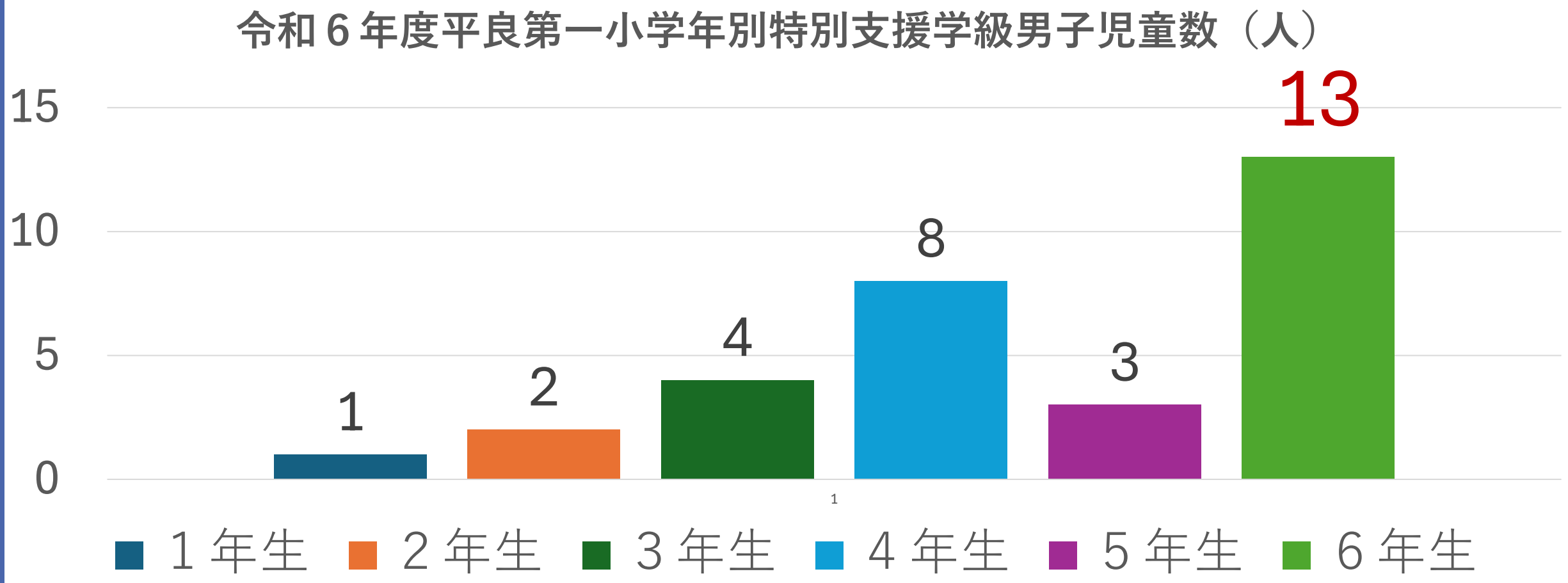


	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
平良第一小学校	2.9	3.7	4	12.2	5.7	18.4
北小学校	8	10.2	6	8.3	4.1	5.3
南小学校	6.1	8.2	8.3	3.2	7.9	12.8
東小学校	4.3	5.2	8	10.3	15	12
平均	5.3	6.8	6.6	8.5	8.2	12.1

平良地区各小学校の特別支援学級男子児童数は学年が進むと共に緩やかな増加。
平一小６年生での増加が突出している

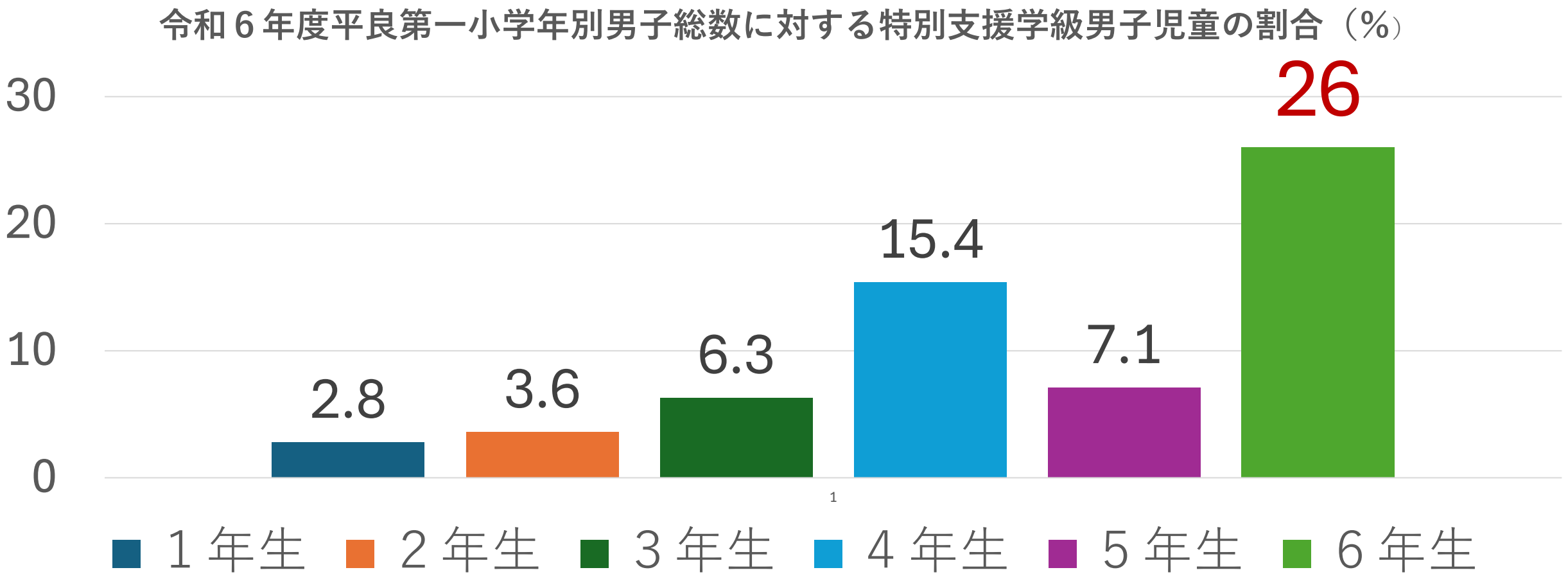


平一小の特別支援学級在籍男子児童数は６年生が突出して多い。



平一小の校庭の隅に、窓が１か所しかない移動式コンテナ型仮設教室６棟が、異彩を放っている。用途は何だろう？

平良第一小６年男子では４人に１人が特別支援学級に在籍するという緊急事態！



教育委員会委員長職務代行者の説明

１．父兄の理解が進み、特別支援学級への振り分けのハードルが低くなった。

２．教室が足りなくなり、特別支援教室として６棟利用する。通級や特別支援学級の発達障害児の利用や相談の為に利用する。

平一小は、児童数は減少しているにも関わらず、高学年での特別支援を必要とする児童の急増により、コンテナ式仮設７教室の増設という非常事態！

特別支援学級の一般的構成生徒数は６～８人であり、平一小の６年生１８人の為に３教室が必要。４年生１２人の為、２教室必要。５年生に５人に１教室必要。１～３年生１０人に対し２教室必要。合計７教室必要。

宮古島市の平良地区小学校、特に平一小学校６年生男児に何かが起こっている！

１．平一小の特別支援学級は全学年で何クラスあるのだろうか。６年生では何クラスあるのだろうか。

２．平一小の発達障害児童の特別支援学級在籍児童に占める割合は何割だろうか。

３．児童数は年々減少している。既存の教室を利用して特別支援学級設置はできないのか。

４．文科省は、特別支援教室について、通常学級に在籍する発達障害児童の教育や父兄への相談の巡回的利用を規定している。平一小に新規に設置された６棟のコンテナ型プレハブ建物は、このような利用がなされるのか。 それとも、既存の教室が不足している為、常設の特別支援学級教室として利用するのか。

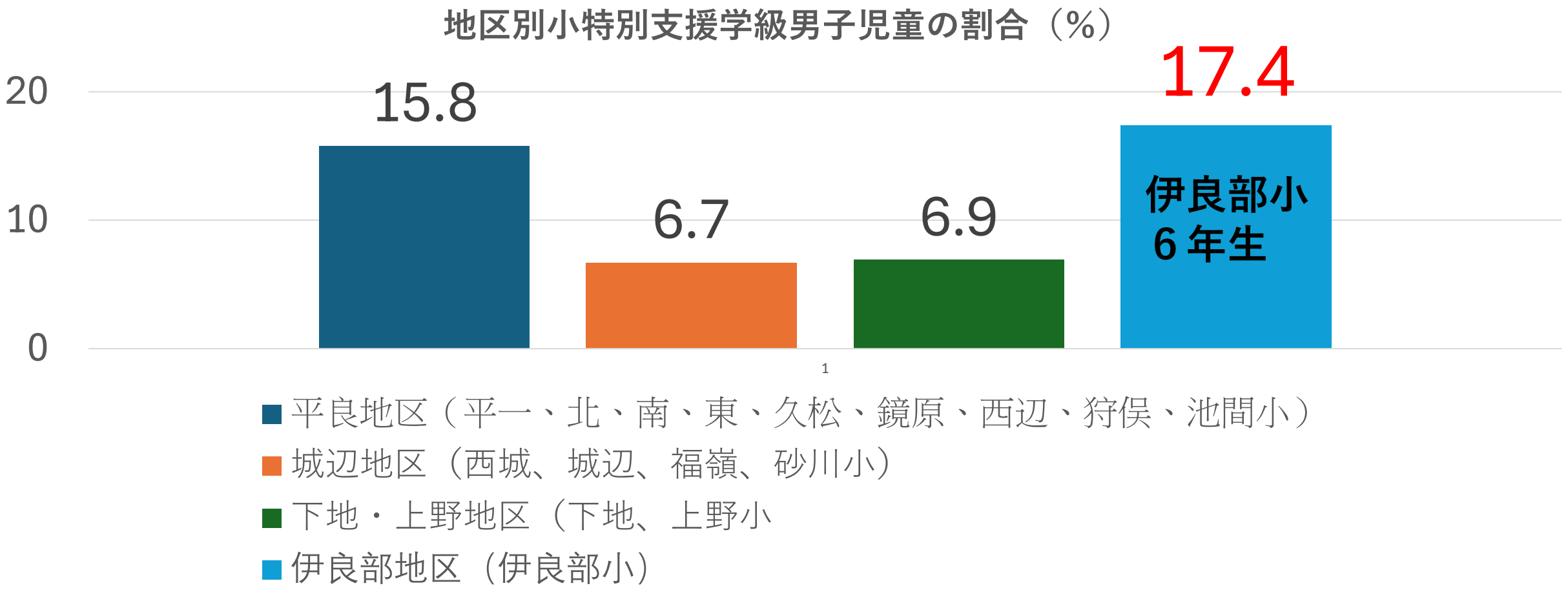
５．コンテナ型移動式プレハブ教室利用は、設置が簡単でや費用が安く済み、緊急時の利用は理解できる。しかし、常設利用にかんして、いくつかの 問題点がある。

①窓が１つしかなく、閉鎖された環境であり、 発達障害児も教育利用に適した状態なのか。

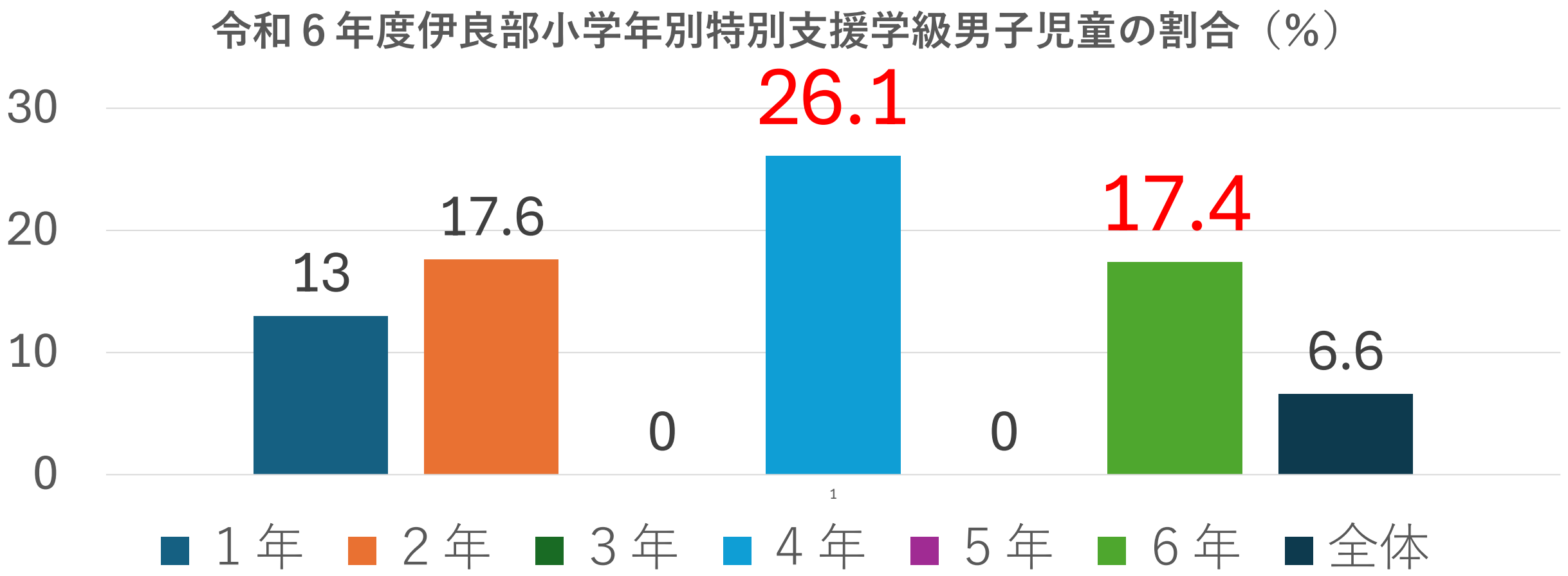
②大型台風の多い宮古島で、簡単に固定している状態で、強風に耐えられるか疑問である。

③平一小の校庭は、水はけがわるく、記録的大雨の時の、浸水対策は考慮しているのか疑問。

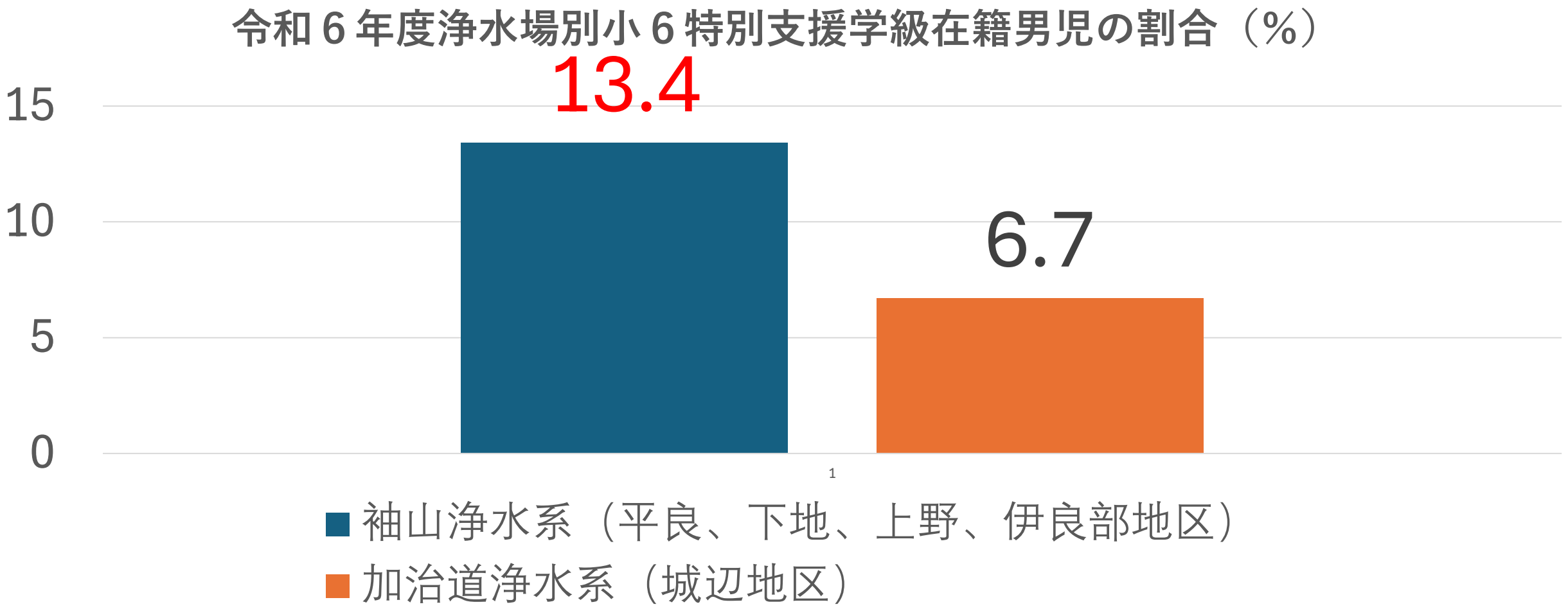
平一小に続き伊良部小６年生男子の６人に１人が特別支援学級に在籍！



伊良部小特別支援学級男子割合は、２年生、４年生、６年生で突出！５人に１人が在籍！



袖山浄水系配水では、加治道浄水系配水の２倍も特別支援学級男子数が多い！　何故？



全体の７割を担う主要水源である袖山浄水系から配水される平一小等の平良地区及び伊良部地区伊良部小男児での特別支援学級在籍割合が多い

１．平一小に続き伊良部小６年生男子の６人に１人が特別支援学級に在籍。

２．袖山浄水系から水道水が配水されている平良地区の平一小と同様伊良部地区の伊伊良部小特別支援学級男子割合は、２年生、４年生、６年生で突出しており、平均すると５人に１人の男児が特別支援学級に在籍している。

３．袖山浄水系配水では、加治道浄水系配水の２倍も特別支援学級男子数が多い。原因に関して、今後、分析が必要である。

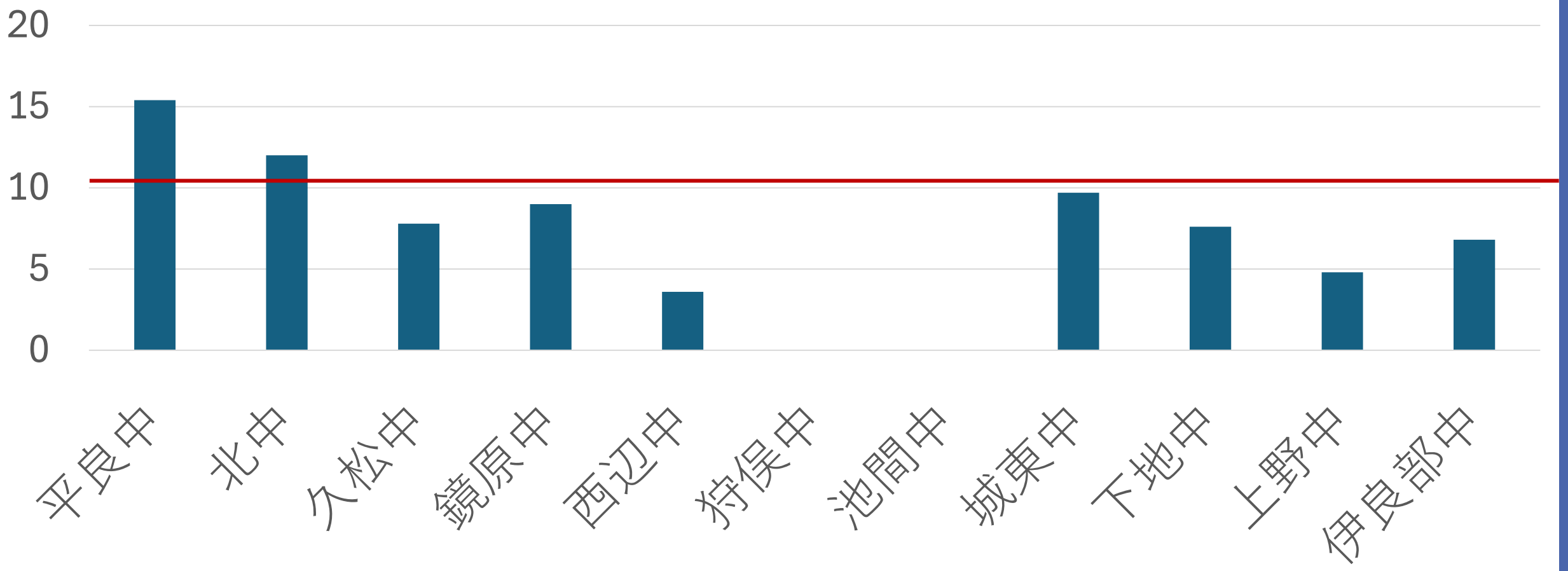
宮古島市の子供たちは、ネオニコチノイド暴露動物実験結果を再現するという悲劇的な状況！

１．ネオニコチノイド系農薬クロチアニジンの脳発達神経毒性は、オスのマウスでの影響が大きい。ヒトでも自閉症スペクトラム症などの発達障害は、男性で優位に多い。

２．ネオニコチノイド系農薬クロチアニジンは、オスのマウスで腸内細菌叢の多様性低下を引き起こし、ストレスが加わると変化を増強する。自閉症スペクトラム症では、腸内細菌叢の多様性低下が、発病や症状悪化のリスクになることが報告されている。

平一小学校校長及び教育委員会は、「不都合な真実」として覆い隠すのではなく、父兄や市民に現状の深刻さを説明し、早急に原因の究明と対策を実施しなければならない。

令和６年度宮古島市中学校特別支援学級在籍男児の割合（%）



令和６年度浄水系別特別支援学級在籍男子の割合（%）